J 使用説明書

目次

お買い上げありがとうございます。
ディマージュX1は、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズームを搭載した、有効画素数約800万画素のデジタルカメラです。超薄型ボディやメインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、シーンセレクターモードや動画撮影、音声記録、手ぶれ補正機能等豊富な機能を備えています。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

動画撮影/ボイスレコード………………… 81

動画の撮影方法とボイスレコード(音声記録)の方法について説明しています。動画撮影/ボイスレコードの前に一通りお読みください。

再生モード…………………………………… 91

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(次ページへ続く →)

セットアップモード........................ 122
液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

パソコンと接続する........................ 139
このカメラで撮影した画像をお持ちのパソコンに取り込んで保存する方法や、付属のソフトウェアについて説明しています。

その他 …………………………………… 165

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

KONICA MINOLTAは、コニカミノルタホールディングス株式会社の登録商標です。
DiMAGEおよびオンラインラボは、コニカミノルタフォトイメージング株式会社の登録商標です。
WindowsおよびWindowsXPは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Apple、Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびQuickTimeロゴは、Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Kodak および EasyShareは、米国Eastman Kodak Companyの登録商標です。
Intel および Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。
その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発火注意)

充電式リチウムイオン電池 NP-1 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用のクレードルをご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

電池のプラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時温度：0℃～40℃
充電時温度：10℃～45℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～50℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・クレードル・ACアダプターについて

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

クレードル CA-1のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

ACアダプター（セット）をご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。

目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。

交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。

転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様センターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

カメラ・クレードル・ACアダプターについて（続き）

⚠ 警告

クレードルやACアダプター（セット）をご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。傷んだコードは使用しないでください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

⚠ 注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

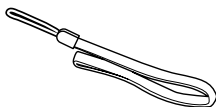
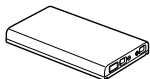
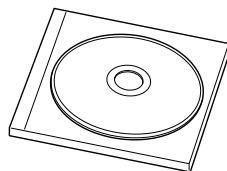
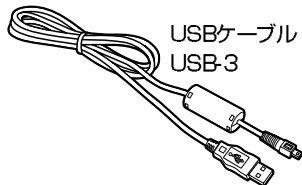
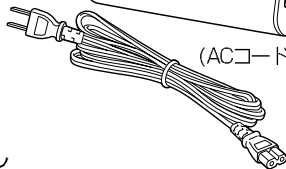
クレードルやACアダプター（セット）使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

クレードルやACアダプター（セット）を布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、クレードルやACアダプター（セット）の電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

クレードルやACアダプター（セット）を、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

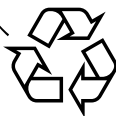
内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

本使用説明書

アフターサービスのご案内

コニカミノルタからのお知らせ

保証書

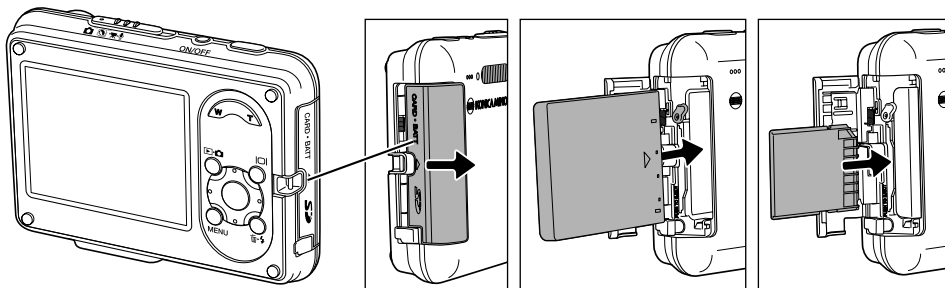
*電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正の充電式リチウムイオン電池をお使いください。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体、または、リサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

【リサイクル協力店お問い合わせ先】
社団法人　電池工業会
TEL　：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

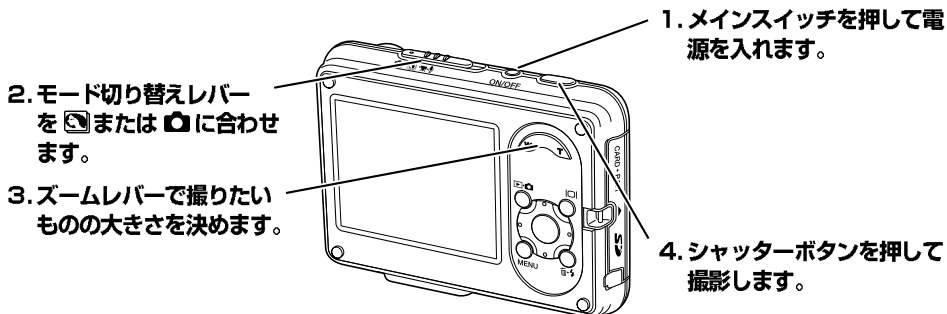
ユーザー登録について

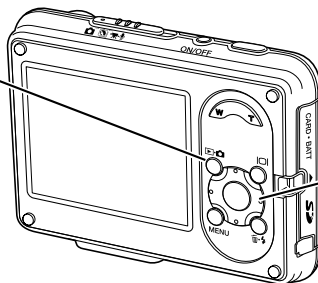
本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

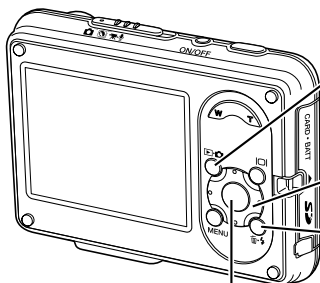
早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。→P.21
2. 充電済みの電池を入れます。→P.21
3. カードを入れます。→P.26

撮影する →P.32

1. メインスイッチを押して電源を入れます。
2. モード切り替えレバーを［撮影モード］または［カメラ］に合わせます。
3. ズームレバーで撮りたいものの大きさを決めます。
4. シャッターボタンを押して撮影します。

再生する →P.44、92

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード▶にします。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

消去する →P.45、102

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード▶にします。

- 撮影された最新の画像が表示されます。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3. 消去ボタンを押します。

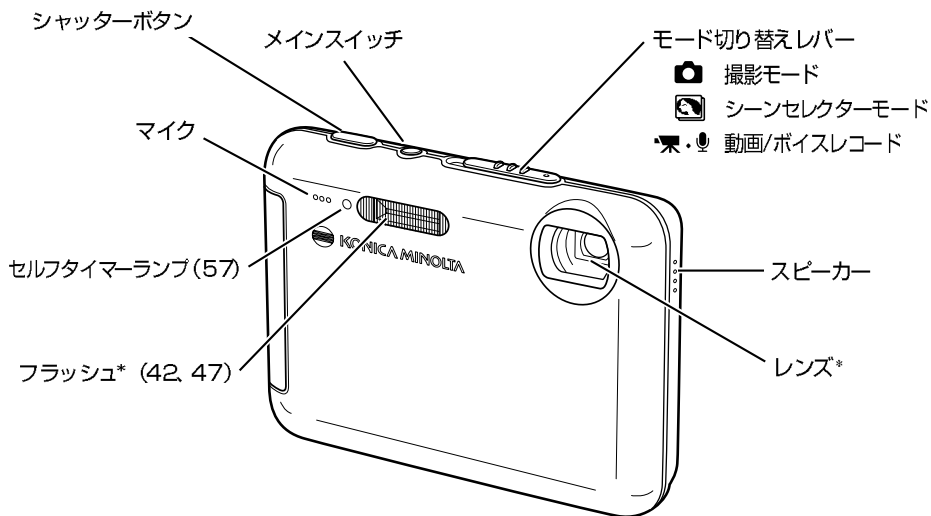
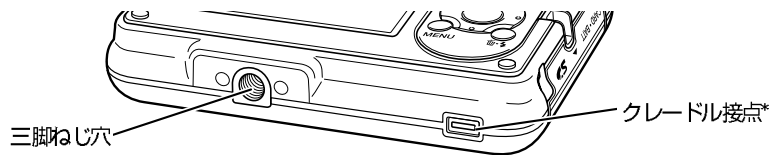
- 右の確認画面が現れます。

4. 十字キーの左右で[はい]を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。
- 消去しない場合は、十字キーの左右で［いいえ］を選択してください。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ底面

ボディ背面

**の付いたところは、必要時のみ点灯します。

フラッシュ/アクセスランプ（赤色）**
ゆっくり点滅：フラッシュ充電中（P.42）
すばやく点滅：カードに記録中です。カードを取り出さないでください。
または電池容量がありません（P.23）。

手ぶれ補正ランプ（67）**

液晶モニター（18）*

ズームレバー

電池室/カードスロットふた（21、24、26）

液晶モニターボタン（43、73、94）

ストラップ取り付け部（19）

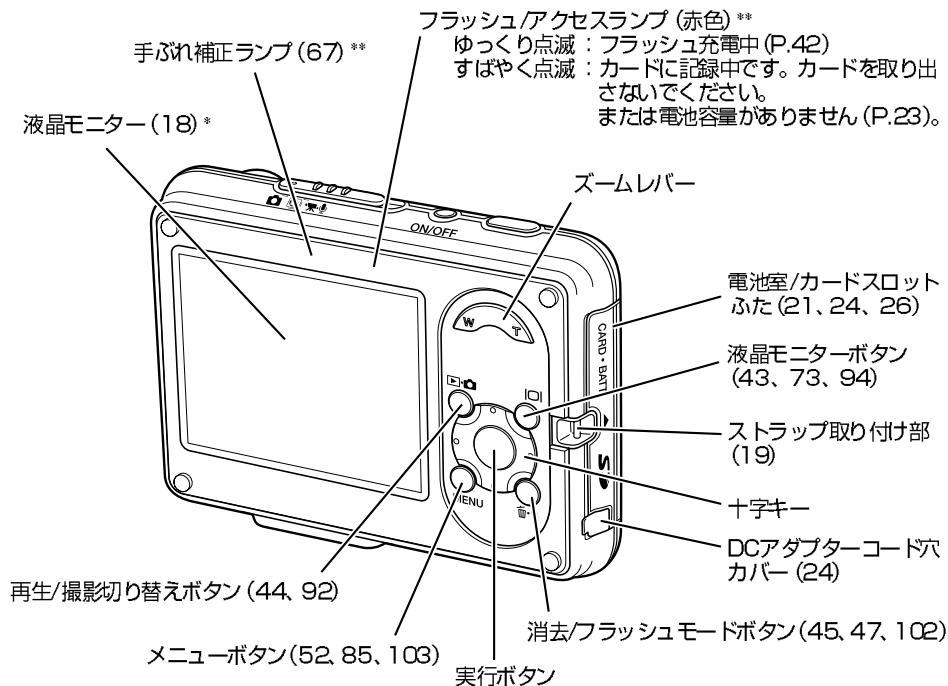
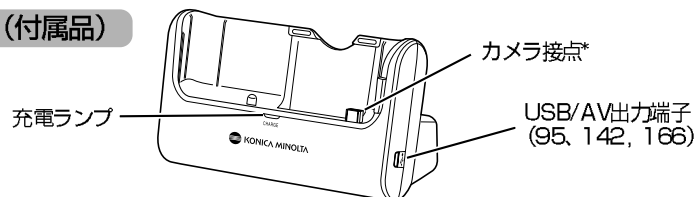
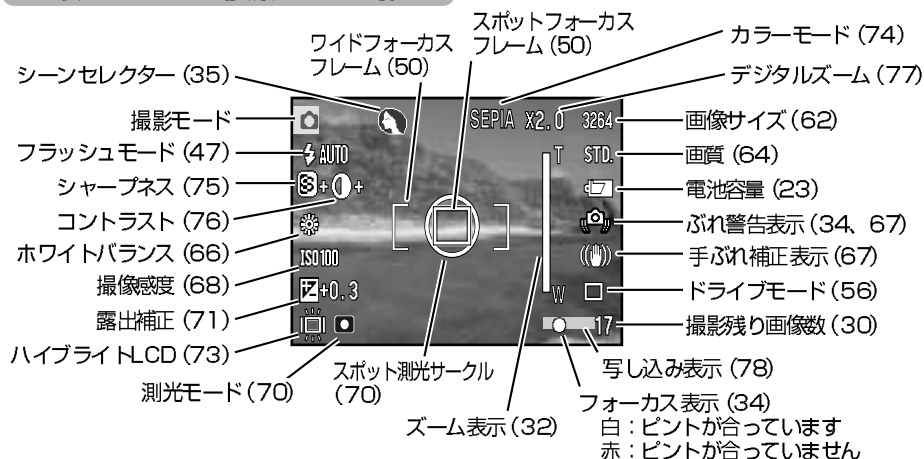
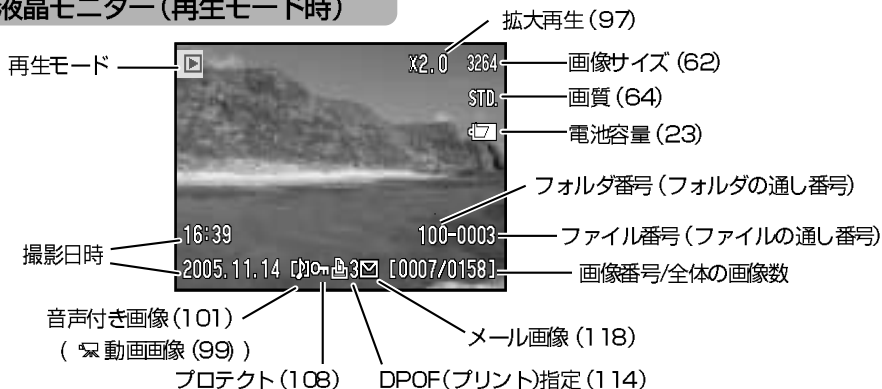
十字キー

DCアダプターコード穴カバー（24）

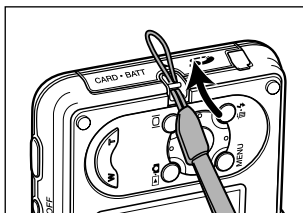
再生/撮影切り替えボタン（44、92）

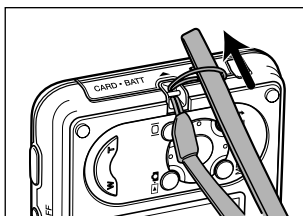
消去/フラッシュモードボタン（45、47、102）

メニューボタン（52、85、103）

実行ボタン

クレードル（付属品）

液晶モニター（撮影モード時）

液晶モニター（再生モード時）

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップの取り付け方

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

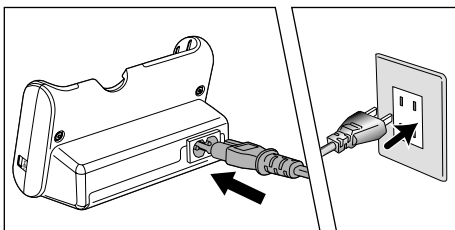
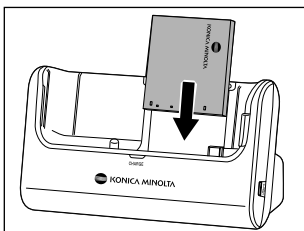
- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

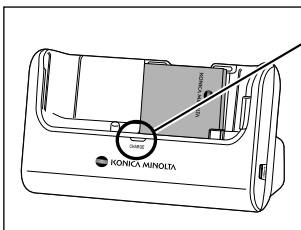
電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-1）を使用します。お買い上げの際には電池は充電されていません。付属のクレードルセット CA-1で完全に充電してからお使いください。

● クレードルに付属のACコードは日本国内用です。海外でのご使用については184ページをご覧ください。

電池（単体）を充電する

● 専用電池（NP-1）以外は充電しないでください。

1. 付属のクレードルの電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池をクレードルに取り付けます。

● 接点部分を下に、文字面を前に向けて入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約120分です。

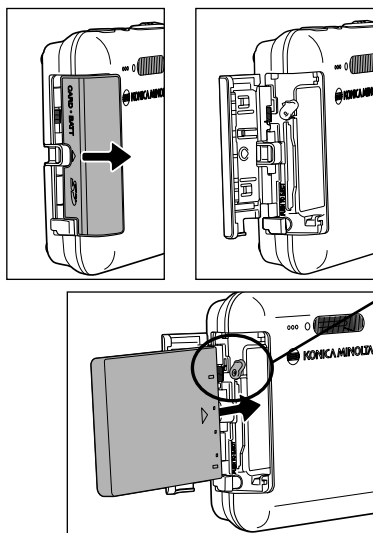
3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

4. 先に電池をクレードルから取り出してから、コードをコンセントから抜いてください。

● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

● 電池の状態によっては、クレードルに取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回、5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池を入れる

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら①、接点を先に、文字面をカメラ前面側にして電池を入れます。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

3. 電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

- 最後まで確実に閉めてください。

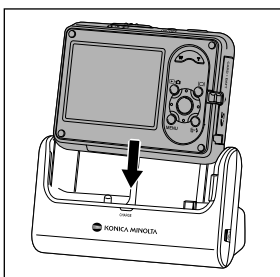
電池の追加購入

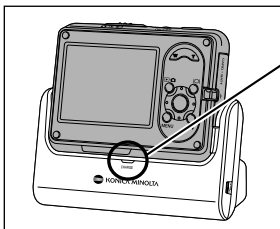
このカメラの専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-1）を追加で購入される場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社フォトスクエア、コニカミノルタネットショップ（弊社ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/よりアクセス可能）、お買い求めの販売店のいずれかにてご購入ください。

電池をカメラに入れたまま充電する

カメラに電池を入れたままでも、付属のクレードルセットで電池を充電できます。

1.カメラに電池を入れます。詳しくは→21ページ

2.電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

3.カメラの電源が切れていることを確認して、カメラをクレードルに取り付けます。

- 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。
- 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。充電時間は約120分です。
- カメラの電源が入っていると充電されません。
- カメラを取り付けても充電ランプが点灯しない場合は、カメラをいったん取り外して再度取り付け直してください。

4.充電ランプが消えたら充電完了です。

5.先にカメラをクレードルから取り外してから、コードをコンセントから抜いてください。

- カメラをクレードルに取り付けたままコードを抜くと、放電しやすくなります。

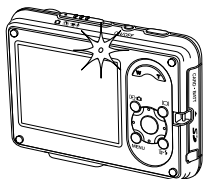
- クレードルは、テレビで画像を見るとき（→P.95）や、パソコンと接続する際（→P.142）やプリンタとのPictBridge接続時（→P.166）のカメラスタンドとしてもお使いいただけます（カメラの電源が入っているときは電池の充電は行われません）。
- カメラ底面のクレードル接点にほこり等がついていると、充電されない場合があります。乾いた先の細い綿棒などでときどきクレードル接点を拭いてください。

電池容量の確認

メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

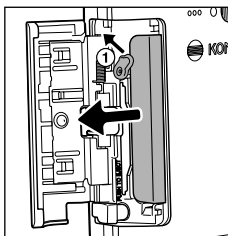
 電池容量は十分です。（4秒間のみ表示）

 電池容量が少なくなりました。

 （赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできますが、動画撮影（P.83）、手ぶれ補正（P.67）、バラエティ連写（P.56）は使用できません。
これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

赤ランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるときは、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影時には、別売りのACアダプターセット AC-402の使用をおすすめします。

電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。

1. 電池室/カードスロットふたを開けます。
- ふたの開け方は → P.21

2. 電池ロックレバーを図の方向に押して①、電池を取り出します。
- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

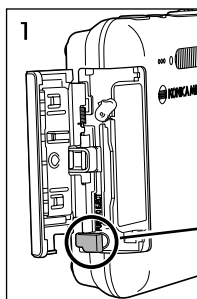
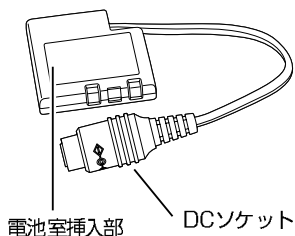
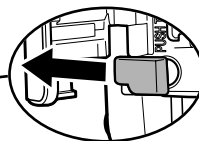
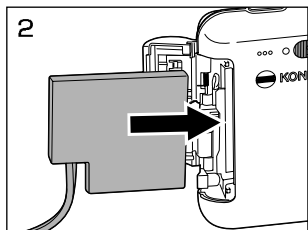
オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

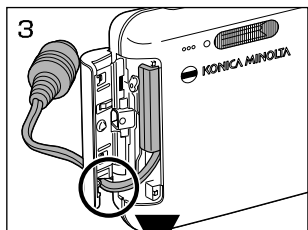
約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。
● オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→ P.129

● 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われ、起動時に液晶モニターに左のメッセージが現れます。十字キーの左右で［はい］を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面になり、日付・時刻を設定できます（→ P.28）。
● ［いいえ］を選んで実行ボタンを押すと、左のメッセージは消えます。なるべく日付・時刻を設定されることをおすすめします（→ P.28）。

ACアダプターセット（別売り）

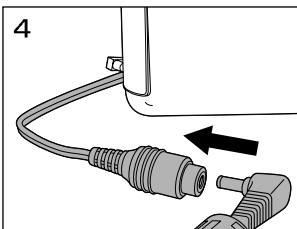
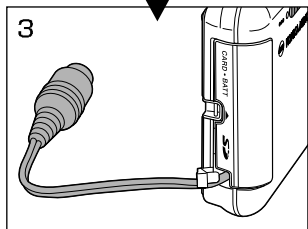
屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプターセット AC-402を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。
ACアダプターセット AC-402は、ACアダプター AC-4とDCアダプター DA-200との組み合わせ商品です。

【DCアダプター DA-200】

1. カメラの電源を切り、電池室/カードスロットふたを開け、電池室/カードスロットふた横にあるDCアダプターコード穴カバーを開けます（下図）。

2. 21ページ［電池を入れる］と同じ要領で、DCアダプターDA-200の電池室挿入部を電池室に入れます。

● 接点を先に、文字面をカメラ前面側にして、電池室に奥まで入れてください。

3. 操作1.で開けたコード穴にDCアダプターDA-200のコードを収めて、電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

● 左図のようにコードを穴に収めないと、ふたを元通り閉じることができません。

4. DCアダプターDA-200コード先端の DCソケットに ACアダプター AC-4のDCプラグを差し込みます。

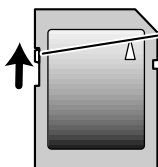
5. ACアダプターAC-4の電源プラグをコンセントに差し込みます。

※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。

取り外し方

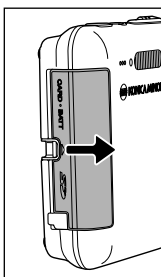
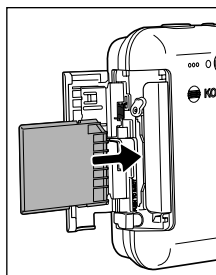
1. カメラの電源を切ります。
2. 電源プラグをコンセントから抜いて、ACアダプターのDCプラグをDCアダプターのDCソケットから取り外します。
3. 電池室/カードスロットふたを開け、23ページ［電池を取り出す］と同じ要領でDCアダプターの電池室挿入部を取り出した後、ふたを元通り閉めて、DCアダプターコード穴カバーを閉じます。

カードを入れる/取り出す

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

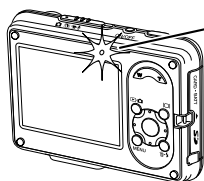
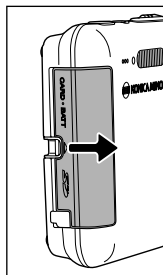
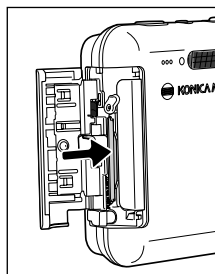
● SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードのラベルをカメラの背面側、接点を前面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

● まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
● カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
● 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. 電池室/カードスロットふたを閉めます。
- 閉まらない場合は、下の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

- カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画・ボイスレコードモードでは時間表示が、赤色の－－－－になります。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

赤色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1. カメラがOFFになっているのを確認後、電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。
- ロックが外れ、カードが出てきます。

3. カードを取り出し、電池室/カードスロットふたを閉めます。

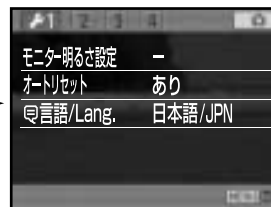
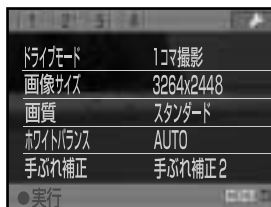
日時を設定する

カメラに電池を入れたあと、撮影を開始される前に日付・時刻の設定を確認してください。

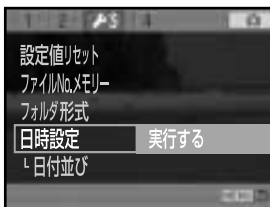
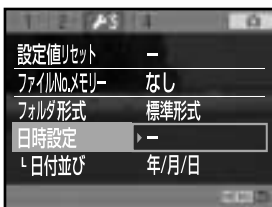
メニューで日時設定画面を表示させる

1. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

2. 十字キーの左右を押して画面右上の を選んで反転させ、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- セットアップモードのメニュー画面になります。

3. 十字キーの左右で [3] を選び、上下で [日時設定] を選びます。

4. 十字キーの右を押して [実行する] が表示されたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 日時設定画面になります。

5. 日時設定を変更する場合は、右ページの2～5の手順で設定します。

- カメラの電池を入れると、日付・時刻記憶用の内蔵バックアップ電池の充電が開始されます。フル充電するには約24時間かかります（その間メインスイッチはOFFにできます）。フル充電後は、カメラの電池を抜いている間でも、内蔵バックアップ電池が約1ヶ月間設定を記憶しているので、この間に電池交換を行ってください。カメラの電池を長時間抜いて設定が消えてしまった場合は、左のページの要領で再設定してください。
- 日付の並び順を変えることができます。→P.137
- 日時設定を行った後に電源を切ると、アクセスランプがしばらく（30秒前後）点滅した状態になることがあります。これは、CCD（撮像素子）の調整を行うためで、故障ではありません。アクセスランプが消灯するまでは、カメラの電池を抜かないでください。

日付・時刻設定を促すメッセージが現れた場合

電池を抜いたまま長時間放置した後でカメラを使うときなどは、左図のメッセージが現れます。

1. 十字キーの左右で［はい］を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 日時設定画面になります。

2. 十字キーの左右で修正したい項目を選びます。

3. 十字キーの上下で数値を設定（変更）します。
- キーを押し続けると、数値が早送りされます。

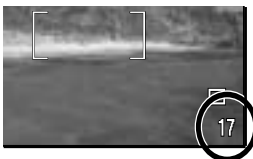
4. 必要なだけ2.～3.の操作を繰り返します。

MENU

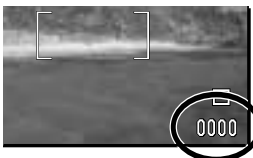
5. 修正が終わったら、十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 日付設定が完了し、時計がスタートします。
- 途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわずに元の画面にもどります。

日時設定画面

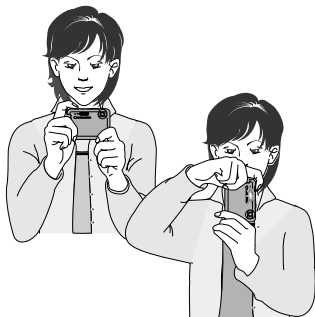
撮影の準備

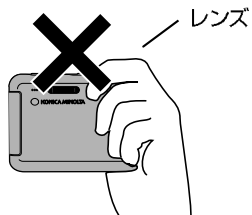
撮影残り画像数

カードを入れて、カメラの電源を入れ撮影モードにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

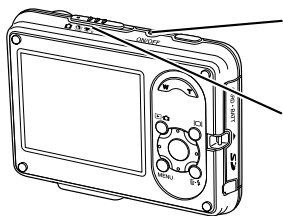
1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード（32MB）で初期設定（画像サイズ3264×2448、画質スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約13枚です。

- 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は → P.65

- 「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードがいっぱいです。画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。
  画像サイズの変更 → P.62
  画質の変更 → P.64
  画像の消去 → P.45、104

- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

カメラの構え方

手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。

- 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 動画撮影時（→ P.83）やボイスレコード（→ P.90）、アフレコ（→P.107）で録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。

レンズやフラッシュに指をかけないように！
失敗の原因となるので注意してください。

撮影する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

● 電池やフラッシュの充電状態によっては、起動時間が若干長くなったり、操作を受け付けないことがあります。

2. モード切り替えレバーを （シーンセレクターモード）または （撮影モード）に合わせます。

● シーンセレクターモードでは、自分で撮影シーンを選べます。シーンに合った画像を簡単に撮ることができます。

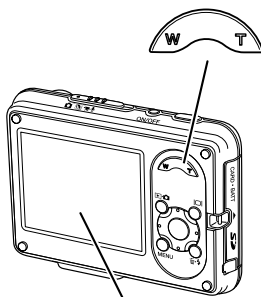
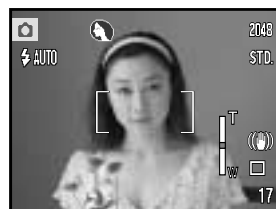
● 撮影モードでは、メニューで設定を変えて、シーンセレクターモードよりも多様な撮影ができます。

撮影モード

シーンセレクターモード

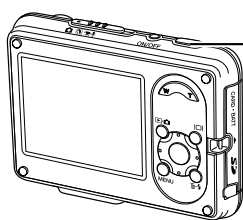
3. 液晶モニターを見ながら構図を決め、ズームレバーで大きさを決めます。

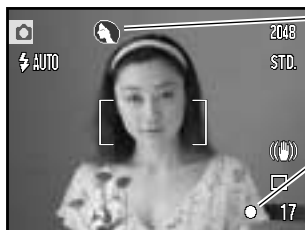
液晶モニター

● ズームレバーの「T」側を押すと望遠に、「W」側を押すと広角になります。液晶モニターに表示されるズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします（表示上側が望遠、下側が広角）。

撮影モード

シーンセレクターモード

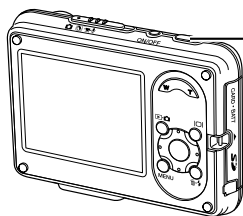
● 液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。

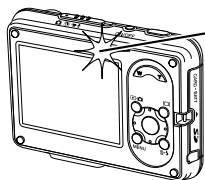
※ピントが合わないときは →P.41

● 撮りたいものから広角側は10㎝以上、望遠側は40㎝以上離れてください。

4. シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● シーンセレクターモードでは、自分で希望の撮影シーンを選択できます。→P.35

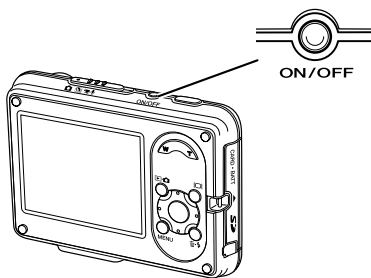
● シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が点灯します。

※半押ししたときのその他の表示については →次ページ

5. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

● 撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー、P.72）。

● 撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中は赤色のアクセスランプが点滅します。その間はカードを取り出さないでください。

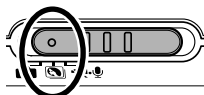
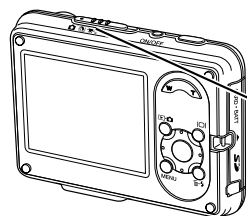
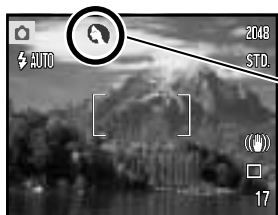
赤色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

● シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニターの表示	状況
白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
赤色の●点灯	ピントが合わない、または、撮りたいものに近づきすぎています（→ P.40）。
(手ぶれアイコン)	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

● 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

シーンセレクターモード

モード切り替えレバーをシーンセレクターモード（）の位置に合わせると、十字キーの左右を押すことで、自分で目的の撮影シーンを以下の中から選べます。

撮影シーンを設定する

1. モード切り替えレバーを （シーンセレクターモード）に合わせます。

● 画面の上側に撮影シーンを表す絵表示が現れます。

（次ページへ続く →）

2. 十字キーの右または左を押します。

● 撮影シーンの選択画面が現れます。

3. 十字キーの左右を押して、希望の撮影シーンを選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 選択した撮影シーンを表す絵表示になります。

※各モードの説明は、37～39ページをご覧ください。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スーパーマクロ

5cmまで近づいて撮影できますので、小さいものをより大きく撮影できます。

- ズーム位置は自動的に固定されます。
- フラッシュでできる影が見苦しくなりますので、フラッシュ発光禁止（→ P.49）で撮影することをおすすめします。
- 接写は暗くなる場合が多いので、照明を当てて十分に明るくできない場合は、三脚を使っての撮影をおすすめします。

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュ発光禁止（→ P.49）で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。

（次ページへ続く →）

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュ発光禁止（→ P.49）で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。

夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。

- フラッシュモードは発光禁止になります。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに ![icon] が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。

夜景ポートレート

夜景を背景に記念撮影する場合、両者をバランスよく再現します。

- フラッシュモードは、スローシンクロになります。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- 撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

テキスト

書籍などの印刷物の文字が、背景が明るく仕上がり、文字がくっきりきれいに再現されるように設定されています。

- 撮影したい文字の背景が明るいほど、効果的に文字を撮影できます。
- 背景となる明るい部分が、撮影画面一杯になるように構図をとることをおすすめします。

ピント合わせ

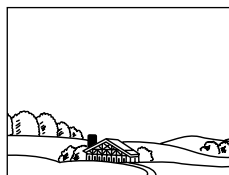
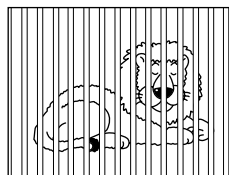
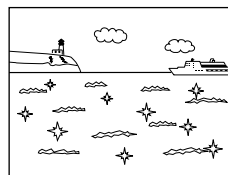
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　] の中のものにピントが合います。ピントが合うと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

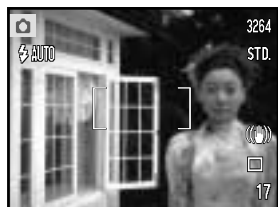
赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから広角側は10cm以上、望遠側は40cm以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

● 自分の意図する部分に、より厳密にピントを合わせたい場合は、スポットフォーカスフレームをお使いください（→ P.50）。

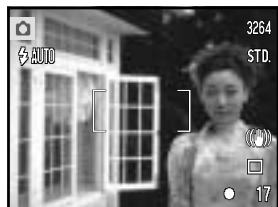
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　]の中に距離の異なるものが混じっているとき

太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

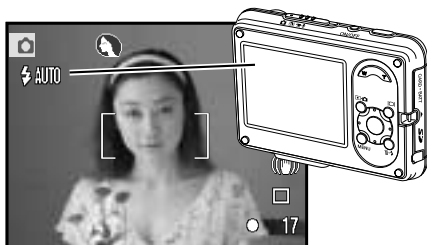
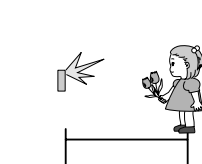
ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定(フォーカスロック)して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合っていること(液晶モニター右下の白い○が点灯)を確認します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

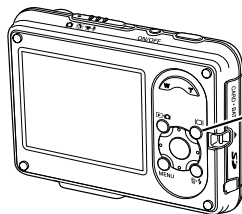
フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光⚡AUTO の場合、必要なときには自動的に発光します。
※フラッシュの光り方を変更するには → P.47

- 液晶モニター右上の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光⚡AUTO（ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光◎AUTO）になります。(→ P.126)

広角側：0.3～2.2m
望遠側：0.4～2.1m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では2.2m、最望遠側では2.1mを目安に撮影してください。(撮像感度AUTO時)

- 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。(→ P.69)

画面表示の切り替え（撮影モード）

シーンセレクターモード（モード切り替えレバー位置）または、撮影モード（モード切り替えレバー位置）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

液晶モニター：表示あり　　液晶モニター：表示なし

- この使用説明書では、「表示あり」（左側）の状態で説明しています。

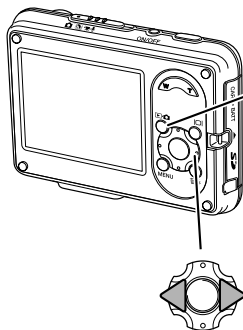
※各表示については →P.18

- 液晶モニターを「表示なし」にした場合でも、電池容量（P.23）、フォーカス表示、写し込み表示（P.78）は表示されます。
- 液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。

※ハイブライトLCD→ P.73

- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと「表示あり」（左側）の状態になります。

※設定を保持したいときは → P.126

撮影した画像を見る

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード▶にします。

● 撮影された最新の画像が表示されます。

● 液晶モニターに再生モードが表示されます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

左キー

右キー

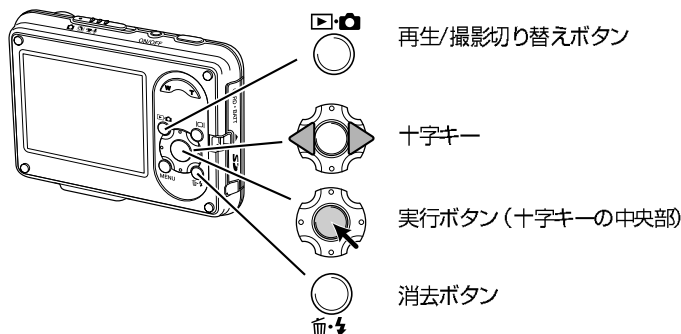
● 再生/撮影切り替えボタンをもう一度押すと、撮影モードにもどります。

● 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。

※再生モードの詳細については → P.92～

画像を手早く消去する

画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード ▶ にします。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

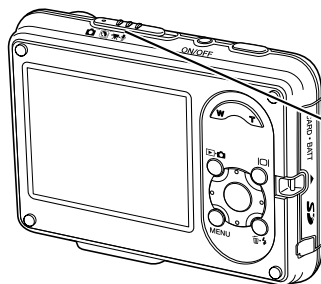
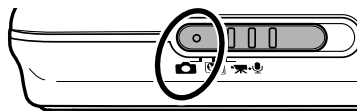
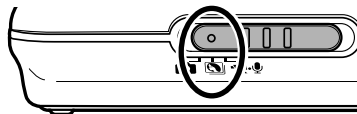
3. 消去ボタンを押します。

- 右（上側）の画面が現れます。
- 消去しない場合は、十字キーの左右で［いいえ］を選ぶか、メニューボタンを押してください。
- 画像がプロテクト（→ P.108）されていて、消去できない場合は右（下側）の画面が現われます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。
- 消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、**2.**〜**4.**の操作を繰り返します。
- 再生/撮影切り替えボタンを押すと、撮影モードにもどります。

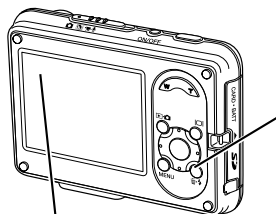
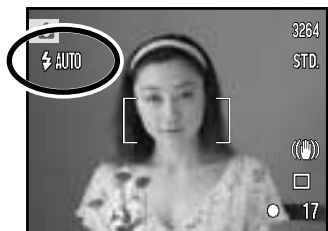
※複数の画像をまとめて消去するときは →P.104

撮影モード（詳細）

モード切り替えレバーが 位置または 位置でのカメラの詳細な使い方について説明しています。

撮影モード

シーンセレクターモード

フラッシュの光り方を設定する

フラッシュの光り方を、自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止、スローシンクロのうちから選んで設定することができます。

- 液晶モニター右上の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 AUTO（ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光 AUTO）になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュの光り方が切り替わります。

- 設定されるフラッシュの光り方が液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのフラッシュの光り方に設定されて撮影画面にもどります。

AUTO	自動発光	必要時にはフラッシュが自動的に発光します。→ P.48
↓ AUTO	赤目軽減自動発光	フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。 フラッシュは必要時には自動的に発光します。→ P.48
↓	強制発光	フラッシュは必ず発光します。→ P.48
↓	発光禁止	フラッシュは発光しません。→ P.49
↓ SLOW	スローシンクロ	夜景を背景に人物を撮影するときに使います。→ P.49

自動発光

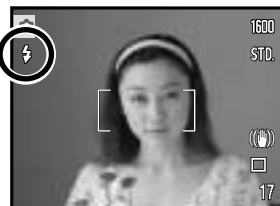
暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

赤目軽減自動発光

暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ◎AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

強制発光

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ⚡ を表示させます。

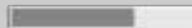
発光禁止

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れてお知らせします）。

ノイズリダクションについて

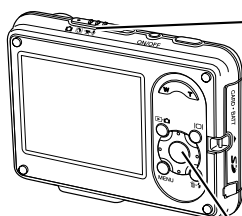
シャッター速度が遅い、使用温度が高いなどの状況によりノイズが発生しやすくなると、撮影後自動的にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。液晶モニターに「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、実行中は次の撮影はできません。

スローシンクロ

夜景を背景とした人物を撮影するときにお使いください。目が赤く写るのをやわらげるため、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに SLOW を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れてお知らせします）。
- 撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

ねらいの部分にピントを合わせる（スポットAF）

通常はワイドフォーカスフレームでカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。自分の意図する部分により厳密にピントを合わせたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせることもできます。

1.シーンセレクターモード（）、または、撮影モード（）で、十字キー中央の実行ボタンを 数秒間押し続けます。

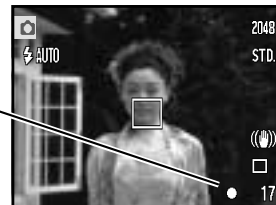
- 液晶モニターにスポットフォーカスフレームが現われます。
- もう一度十字キー中央の実行ボタンを数秒間押し続けるとワイドフォーカスフレームにもどります。

実行ボタン

スポットフォーカスフレーム

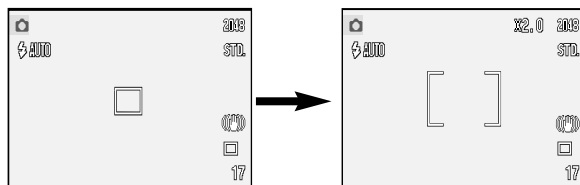
- フォーカスフレームの切り替えは液晶モニターを表示ありにして行なってください。
- 液晶モニターボタンを押して液晶モニターを表示なしにした場合、フォーカスフレームの表示は消えますが、実際のピント合わせは表示ありで設定したフォーカスフレームで行われます。

2. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、液晶モニターの右下の白い○が点灯します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

スポットAF

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ワイドフォーカスフレームになります。スポットフォーカスフレームの設定を保持したいときは → P.126

● デジタルズーム時（→ P.77）のスポットフォーカスフレームは下図のように変わります。

デジタルズーム時

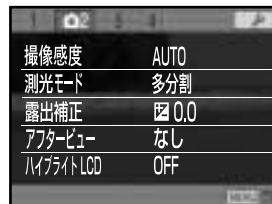
撮影モード時のメニュー設定

モード切り替えレバーが、シーンセレクターモード位置（）、または、撮影モード位置（）にあるときにメニューボタンを押すと、54～55ページに示す設定が可能です。

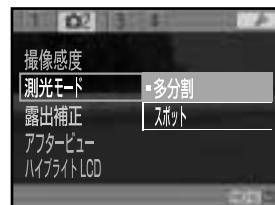
メニュー設定のしかた

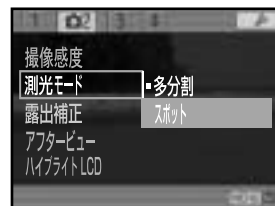
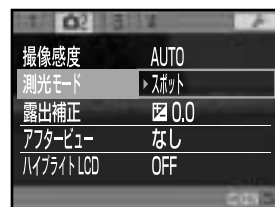
メニューの設定は、十字キーの上下左右と、十字キー中央の実行ボタンで行ないます。

1. モード切り替えレバーが、シーンセレクターモード位置（）、または、撮影モード位置（）にあるときにメニューボタンを押します。

2. 十字キーの左右で、設定したい項目のあるタブ（1～4）を選びます。

3. 十字キーの上下で、項目（メニュー画面の左側に表示されているもの）の中から設定したいものを選びます。

4. 右を押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

撮像感度
測光モード
露出補正
アフタービュー
ハイプライトLCD
▪多分割
スポット

5. 上下で、内容一覧から設定したいものを選びます。

撮像感度
測光モード
露出補正
アフタービュー
ハイプライトLCD
▪多分割
スポット

6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

この説明書では、以後、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。

MENU →［2］→［測光モード］→【右側へ】→［スポット］→【実行】

この表記は、52ページ、53ページの操作手順1.～6.に対応しています。

①メニューボタンを押す。 (→ 52ページ 操作 **1.**)。
②十字キーの左右で［2］を選ぶ (→ 52ページ 操作 **2.**)。
③上下で［測光モード］を選ぶ (→ 52ページ 操作 **3.**)。
④右で右側の項目に移動（選べる設定の一覧が現れる） (→ 53ページ 操作 **4.**)。
⑤上下で［スポット］を選ぶ (→ 53ページ 操作 **5.**)。
⑥十字キー中央の実行ボタンを押して決定 (→ 53ページ 操作 **6.**)。

撮影モード時のメニュー設定（続き）

📷1	
ドライブモード（→P.56）	[1コマ撮影]
	セルフタイマー
	連続撮影
	バラエティ連写
画像サイズ（→P.62）	[3264×2448]
	2560×1920
	2048×1536
	1600×1200
	640×480
画質（→P.64）	ファイン
	[スタンダード]
	エコノミー
ホワイトバランス※（→P.66）	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
手ぶれ補正（→P.67）	手ぶれ補正1
	[手ぶれ補正2]
	なし

📷2	
撮像感度※（→P.68）	ISO 200
	ISO 100
	ISO 50
	[AUTO]
測光モード※（→P.70）	[多分割]
	スポット
露出補正（→P.71）	±2.0（1/3ステップ）[±0.0]
アフタービュー（→P.72）	あり
	[なし]
ハイブライトLCD（→P.73）	ON
	[OFF]

[　　　　]で囲んだものは初期設定です。

※シーンセレクターモード時は設定できません。

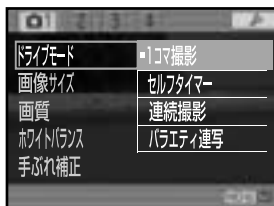
📷3	
カラーモード※ (→ P.74)	[カラー]
	モノクロ
	セピア
シャープネス※ (→ P.75)	ハード (+)
	[標準]
	ソフト (−)
コントラスト※ (→ P.76)	強い (+)
	[標準]
	弱い (−)
デジタルズーム (→ P.77)	あり
	[なし]
日付写し込み (→ P.78)	年月日
	月日時刻
	[なし]

📷4	
上下キーカスタマイズ※ (→P.79)	ドライブモード
	[露出補正]
	ホワイトバランス
	撮像感度
	なし
左右キーカスタマイズ※ (→P.79)	ドライブモード
	露出補正
	ホワイトバランス
	撮像感度
	[なし]

撮影モードメニュー

[　　　　] で囲んだものは初期設定です。

※シーンセレクターモード時は設定できません。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、いろいろな撮影ができます。

1コマ撮影：　シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー：セルフタイマー撮影ができます。→ P.57

連続撮影：　シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→ P.58

バラエティ連写：

UHS連続撮影：シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で連続撮影され、最高15枚まで撮影できます。→ P.58

シャッターチャンス連写：シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されますが、シャッターボタンを離す直前の数コマだけが記録されます。→ P.59

シャッターチャンスUHS連写：シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で撮影され、シャッターボタンを離す直前の約15コマを記録できます。→P.59

マルチフレームショット：9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。→P.61

＊UHS ＝ Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

- オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は1コマ撮影になります。　※それ以外の設定を保持したいときは → P.126
- 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズでドライブモードを設定すると、十字キーを押すだけでドライブモード（の設定）を切り替えることができます。　※詳しくは → P.79

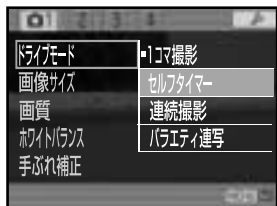
1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［1コマ撮影］→【実行】→ MENU

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［セルフタイマー］→【実行】→ **MENU**

1. 上記の手順で、セルフタイマーを選びます。

- セルフタイマー設定時は液晶モニター右下にが表示されます。

2. シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。

3. シャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は液晶モニター中央に撮影までの残り秒数が表示されます。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます（→P.128）。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンを押すか、ズームレバーを押してください。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。毎秒約0.5コマで約3枚の連続撮影ができます（画像サイズ3264×2448、画質スタンダード、日付写し込み「なし」設定時）。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［連続撮影］→【実行】→ **MENU**

（次ページへ続く →）

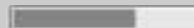
1. 前ページの手順で、連続撮影を選びます。

- 連続撮影設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
- 連続撮影できる枚数には、カメラのメモリ容量による上限があり、画像サイズや画質、被写体によって枚数が異なります（画像サイズ1600x1200、画質エコノミーのときは、約20枚）。デジタルズームを使用時は、枚数が少なくなります。

ノイズリダクションについて

シャッター速度が遅い、使用温度が高いなどの状況によりノイズが発生しやすくなると、撮影後自動的にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。液晶モニターに「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、実行中は次の撮影はできません。

UHS連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で連続撮影され、最高15コマまで撮影できます。

MENU →［ 1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［バラエティ連写 →【実行】

1. 上記の手順で、右の画面を表示させます。

2. 十字キーの左右で、UHS連続撮影 を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● UHS連続撮影設定時は液晶モニター右下に [icon] が表示されます。

3.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

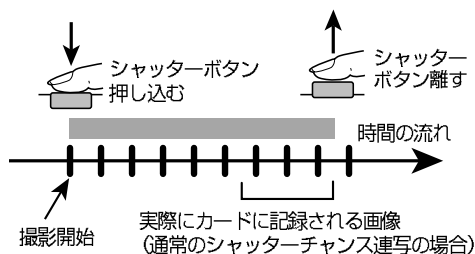
UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、

- 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影はできません。
- カメラ内部のメモリ容量の関係上、連続で撮影できる最大コマ数は15コマです。

- 画像サイズは640×480画素に固定されます。
- フラッシュ撮影はできません。。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- デジタルズーム（P.77）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の [icon] が点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

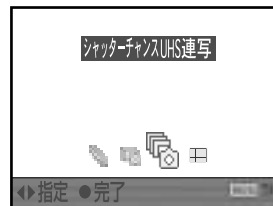
ドライブモード

シャッターチャンス連写　 シャッターチャンスUHS連写

シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われますが、すべての画像が記録されるのではなく、シャッターボタンを離す直前の数コマだけが記録されます。テニスやゴルフのフォームのチェックなど、過去にさかのぼって動きを追いかける連続したシーンの撮影に効果的です。
通常のシャッターチャンス連写（毎秒約0.5コマ）では、画像サイズ 3264×2448、画質 スタンダードで約3コマ 約4秒前まで記録できます。また、シャッターチャンスUHS連写（毎秒約10コマ）では約15コマ、約1.5秒前までさかのぼって記録できます。

（次ページへ続く →）

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［バラエティ連写］→【実行】

1. 上記の手順で右の画面を表示させます。

2. 十字キーの左右で、シャッターチャンス連写またはシャッターチャンスUHS連写を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定時は液晶モニター右下に選択したモードが表示されます。

通常のシャッターチャンス連写

シャッターチャンスUHS連写

3. シャッターボタンを押し続け、記録を終了したいタイミングで離します。

● ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
● フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
● デジタルズーム（P. 77）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からシャッターチャンス連写またはシャッターチャンスUHS連写に設定すると、デジタルズームは解除されます。
● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の▭が点灯している場合）は、シャッターチャンス連写およびシャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
● 手ぶれの少ない、適正な露出の撮影をするには、明るいところでの撮影をおすすめします。

通常のシャッターチャンス連写の場合

● 撮影残り画像数が少ない場合は、シャッターチャンス連写はできません（シャッターは切れません）。画像サイズによって枚数が異なります。

シャッターチャンスUHS連写の場合

● 画像サイズは640×480画素に固定されます。
● 撮影残り画像数が15枚以下の場合は、シャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
● 他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
● 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

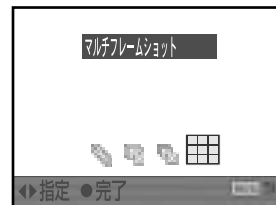
田 マルチフレームショット

9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。人の表情の変化などを撮影して楽しむことができます。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［バラエティ連写 →【実行】

1.上記の手順で右の画面を表示させます。

2.十字キーの左右で、マルチフレームショットを選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● マルチフレームショット設定時は液晶モニター右下に 田 が表示されます。

3.シャッターボタンを押して撮影します。

- 毎秒約3コマの速度で、計9コマ撮影されます。
- フラッシュ撮影はできません.。自動的に発光禁止になります。
- 画像サイズは2048×1536画素に固定されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の ▭ が点灯している場合）は、マルチフレームショットはできません（シャッターは切れません）。
- 手ぶれの少ない、適正な露出のマルチフレームショットを撮影するには、明るいところでの撮影をおすすめします。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。左図の5通りの中から選ぶことができます。

MENU →［ 1］→［画像サイズ］→【右側へ】→［希望のサイズ］→【実行】→ MENU

● 液晶モニター右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。

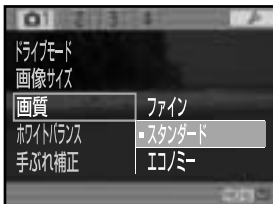
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ3264×2448画素の場合、画像は横に3264、縦に2448に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

このカメラでは、画像サイズを以下の5通りから選ぶことができます。

3264 × 2448	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする(*1)場合におすすめします。約800万画素の画像が撮影できます。 （*1）A4（297㎜×210㎜）程度以上
2560 × 1920	パソコンに取り込んで編集するときや、大きめにプリントする(*2)場合におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 （*2）2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
2048 × 1536	パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合におすすめします。約310万画素の画像が撮影できます。
1600 × 1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする(*3)場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 （*3）L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
640 × 480	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpiの場合を指しています。

画質

画像の圧縮率を指定することができます。左図の3通りの中から選ぶことができます。

MENU →［📷1］→［画質］→【右側へ】→［*希望の画質*］→【実行】→ **MENU**

● 液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。
ファイン → FINE、スタンダード → STD.、エコノミー → ECON.と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン の順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

表示	ファイル形式	説明
ファイン （FINE）	JPEG （圧縮率 小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行う場合、画質の設定は慎重に行ってください。一般的な目安は以下のとおりです。 プリント（印刷）する場合 → スタンダード、ファイン 画像を加工する場合 → ファイン Eメールに添付する場合など → エコノミー
スタンダード （STD.）	JPEG （圧縮率 中）	
エコノミー （ECON.）	JPEG （圧縮率 大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

画質

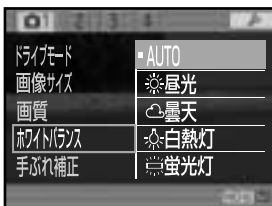
ファイルサイズ

	3264×2448	2560×1920	2048×1536	1600×1200	640×480
エコノミー	約1.0MB	約600KB	約400KB	約240KB	約40KB
スタンダード	約2.0MB	約1.2MB	約800KB	約480KB	約80KB
ファイン	約4.0MB	約2.5MB	約1.6MB	約960KB	約150KB
動画	約1020KB/秒 (640×480) / 約420KB/秒 (320×240)				
音声*	約16KB/秒				

*ボイスレコード、アフレコ

32MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	3264×2448	2560×1920	2048×1536	1600×1200	640×480
エコノミー	約27枚	約44枚	約67枚	約102枚	約326枚
スタンダード	約13枚	約22枚	約35枚	約56枚	約231枚
ファイン	約9枚	約15枚	約24枚	約39枚	約183枚
動画	約29秒(640×480) / 約1分10秒 (320×240)				
ボイスレコード	約31分47秒				

ホワイトバランス（シーンセレクターモードでは設定できません）

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ】→［希望のホワイトバランス］→【実行】→ MENU

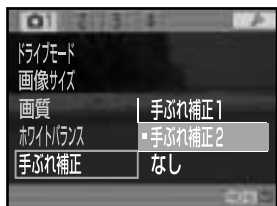
● AUTO（オート）以外を選択すると、液晶モニターに該当するマークが以下の通り表示されます。

昼光（晴れた明るい屋外）
曇天（曇った屋外）
白熱灯（タングステン光）
蛍光灯

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定はAUTOになります。 ※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

● 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズでホワイトバランスを設定すると、十字キーを押すだけでホワイトバランスの設定を切り替えることができます。 ※詳しくは → P.79

手ぶれ補正

初期設定「手ぶれ補正2」では、露光中のみ手ぶれ補正機能が作動します。これを「手ぶれ補正1」に設定すると、シャッターボタン半押し中でも手ぶれ補正機能が作動するようにできます。また、手ぶれ補正機能そのものをなしにすることもできます。

● 静止画撮影時に手ぶれ補正機能が作動しているときは、補正動作が手に感じられることがあります。

MENU →［1］→［手ぶれ補正］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→ MENU

手ぶれ関連表示

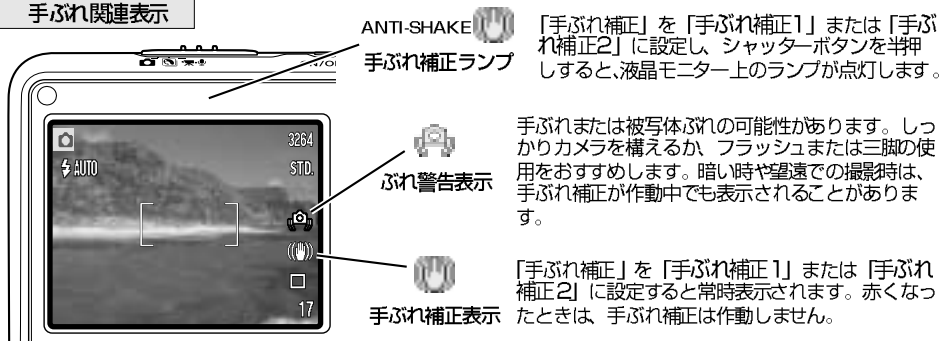
ANTI-SHAKE
手ぶれ補正ランプ

「手ぶれ補正」を「手ぶれ補正1」または「手ぶれ補正2」に設定し、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター上のランプが点灯します。

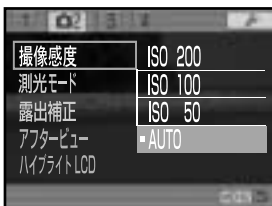
ぶれ警告表示

手ぶれまたは被写体ぶれの可能性があります。しっかりカメラを構えるか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。暗い時や望遠での撮影時は、手ぶれ補正が作動中でも表示されることがあります。

手ぶれ補正表示

「手ぶれ補正」を「手ぶれ補正 1」または「手ぶれ補正2」に設定すると常時表示されます。赤くなったときは、手ぶれ補正は作動しません。

● 撮影時には両手でカメラをしっかり構え、まずシャッターボタンを1秒間程度半押しした後、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。
● 三脚使用時には、手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。
● カメラを構えた直後や被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。
● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）や手ぶれ補正表示 が赤くなった時は、手ぶれ補正は作動しません。撮影はできます。
● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと手ぶれ補正は［手ぶれ補正2］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

撮像感度（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

MENU →［📷2］→［撮像感度］→【右側へ】→［*希望の撮像感度*］→【実行】→ MENU

- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
  オート（AUTO）、ISO 200、ISO 100、ISO 50

- オート（AUTO）の場合、感度はISO50～160の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。
- オート（AUTO）の場合でもカメラの温度が上がった時は、ISO50～100の範囲に制限されることがあります。

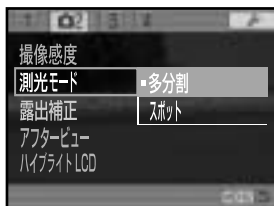
- オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側にISOと選んだ値が表示されます（下図）。

- オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定はAUTOになります。 ※それ以外の設定を保持したいときは → P.126
- 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズで撮像感度を設定すると、十字キーを押すだけで撮像感度の設定を切り替えることができます。 ※詳しくは → P.79

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

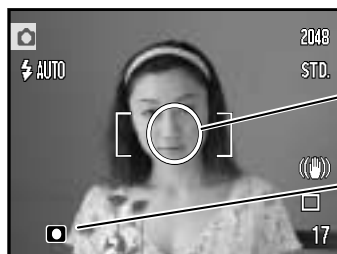
撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離(フラッシュ光の届く距離)は以下の通りになります。感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、画像が粗くなります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート(AUTO)	0.3～2.2メートル	0.4～2.1メートル
ISO 50	0.3～1.2メートル	0.4～1.1メートル
ISO 100	0.4～1.8メートル	0.4～1.6メートル
ISO 200	0.6～2.5メートル	0.6～2.3メートル

測光モード（シーンセレクターモードでは設定できません）

測光モード（画面のどの部分の明るさを測るか）を、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

多分割測光：画面を細かく分割して測光します。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確にとらえます。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光：画面中央にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみの明るさを測ります。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定部分だけを測光するのに適しています。

MENU →［ 2］→［測光モード］→【右側へ】→［希望の測光モード］→【実行】→ **MENU**

● スポット測光を選んだときは、液晶モニターの画面左下に が表示されます。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、測光モードは多分割になります。

※設定を保持したいときは → P. 126

画像を明るくする/暗くする(露出補正)

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で1/3段刻みで補正することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

十字キーの上下で設定する

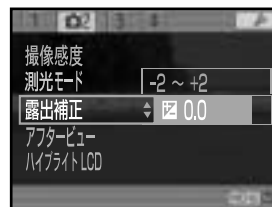
初期設定では、十字キーの上下で露出補正を設定することができます。

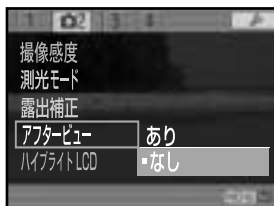
- 上下キーカスタマイズが露出補正以外の機能に設定されている場合は設定できません。詳しくは → P.79

上で、＋側に補正

- 設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。
- 液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。

メニュー画面で設定する

MENU → [2] → [露出補正] → 【右側へ】 → [十字キーの上下で数値設定] → 【実行】 → MENU

- 露出補正を解除するときは、上記のどちらかの操作で 0 を設定してください。
- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は 0になります。
  ※設定を保持したいときは → P.126
- 左右キーカスタマイズで露出補正を設定すると、十字キーの左右を押すだけで露出補正値を設定することができます。
  ※詳しくは → P.79

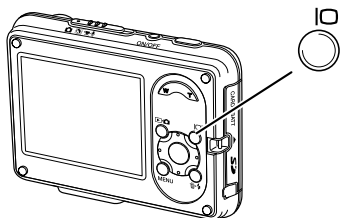
アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー［あり］）。

MENU →［📷2］→［アフタービュー］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ MENU

● 連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
● アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
● アフタービュー[なし]でも、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間 撮影した画像が表示されます。

ハイブライトLCD

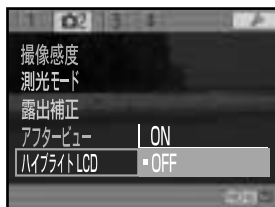
このカメラでは、日中の野外等で液晶モニターが見えにくいとき、液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。初期設定は「OFF」です。

操作方法

液晶モニターボタンを押し続け、ハイブライトLCDの設定を[ON]にします。

- ハイブライトLCDをONに設定したときは、液晶モニターの画面左下に が表示されます。

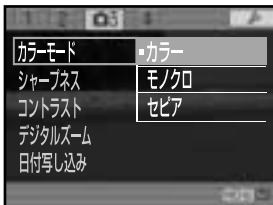
- もう一度液晶モニターボタンを押し続けると、OFFになります。
- 動画撮影時でも設定できます。

下記の手順で、撮影モードメニューからも ハイブライトLCDを設定できます。

MENU →［2］→［ハイブライトLCD］→【右側へ】→［ON または OFF］→【実行】→ MENU

- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ハイブライトLCDはOFFになります。

※設定を保持したいときは → P.126

- ハイブライトLCDをONに設定しているときは、電池の消耗が早くなります。

カラーモード（シーンセレクターモードでは設定できません）

モノクロ（白黒）やセピア調の画像を撮影することができます。

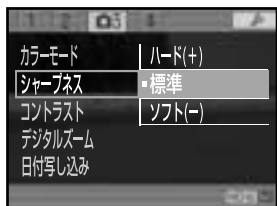
カラー　：通常の標準カラー画像が撮影できます。
モノクロ：白黒画像が撮影できます。
セピア　：やや色あせた、全体に黒茶色（セピア調）の画像が撮影できます。

MENU →［📷3］→［カラーモード］→【右側へ】→［希望のカラーモード］→【実行】→ **MENU**

● ［カラー］は、メニュー画面には表示されますが、撮影中の表示はありません。
● ［モノクロ］［セピア］を選んだときは、液晶モニターの画面上部にそれぞれの絵記号が表示されます。

● 選んだカラーモードに応じて、背景の画像の色調も変わります。
● モノクロやセピアを選んでも、画像ファイルサイズはカラーと同じです。

● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとカラーモードは［カラー］になります。
※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

シャープネス（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（+）：輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準：標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）：輪郭のやわらかな画像になります。

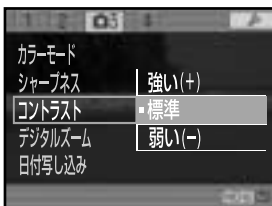
MENU →［📷3］→［シャープネス］→【右側へ】→［*希望の設定*］→【実行】→ **MENU**

● 標準以外に設定すると、液晶モニターには選んだ設定が表示されます。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとシャープネスは［標準］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

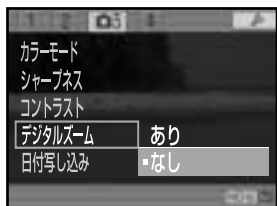
コントラスト（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。3段階から選択することができます。

強い（+）：コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
標準：標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。
弱い（−）：コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

MENU→［3］→［コントラスト］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→MENU

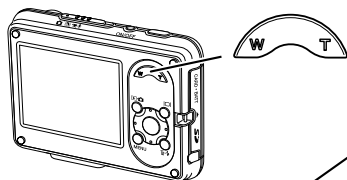
● 標準以外に設定すると、液晶モニターには選んだ設定が表示されます。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとコントラストは［標準］になります。
※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

デジタルズーム

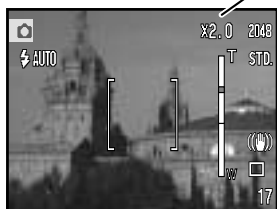
通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに4倍まで画像を拡大することができます。

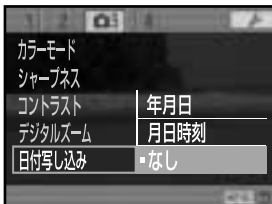
MENU →［ 3］→［デジタルズーム］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ MENU

操作方法

1．上記の手順で、デジタルズーム［あり］を設定します。

2．ズームレバーの右側「T」で望遠側にズームさせます。

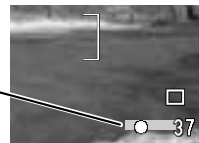
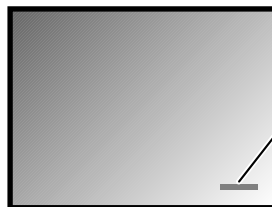
3．そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

●液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。4.0倍まで拡大することができます。また、ズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします。

● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

● 動画撮影の場合は、デジタルズームの設定は別途行います（→ P.87）。

日付写し込み

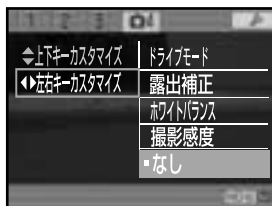
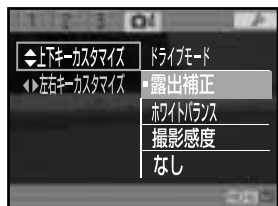
撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。一度入れた日付を消すことはできません。初期設定では写し込みはされません。

MENU →［📷3］→［日付写し込み］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→ MENU

日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

● 実際の写し込み位置は右のようになります。

● 日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は、画像とは別情報として記録されており、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P. 137

● 日付写し込みを「年月日」「月日時刻」に設定していると、連続撮影の速度が遅くなります。

上下／左右キーカスタマイズ（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時によく使う4つの機能の内、いずれかの設定変更を十字キーの上下および左右に割り当てることができます。十字キーの上下左右を押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。初期設定は、上下キーカスタマイズは「露出補正」、左右キーカスタマイズは「なし」です。

キーカスタマイズ
日付写し込み

MENU →［4］→［上下キーカスタマイズ または 左右キーカスタマイズ］→【右側へ】
→［設定変更を割り当てたい機能］→【実行】→ MENU

機能	説明	ページ
ドライブモード	上下キー、または、左右キーを押すたびにドライブモードの設定が切り替わります。	56
露出補正	上または右キーを押すたびに「＋」側に補正され、下または左キーを押すたびに「ー」側に補正されます。（±2.0、1/3ステップ）	71
ホワイトバランス	上下キー、または、左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。	66
撮像感度	上下キー、または、左右キーを押すたびに撮像感度の設定が切り替わります。	68
なし	十字キーには機能は割り当てられていません。	ー

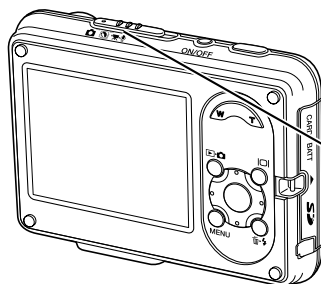
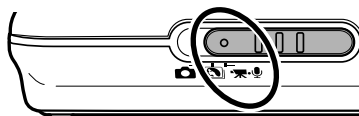
（次ページへ続く →）

上下／左右キーカスタマイズ（続き）

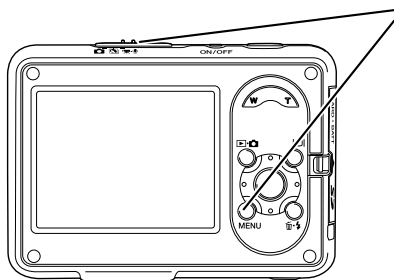
- 上下キーまたは左右キーで各項目の設定を行うと、設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。

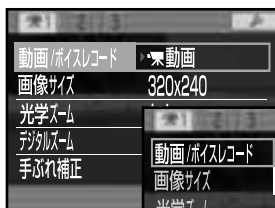
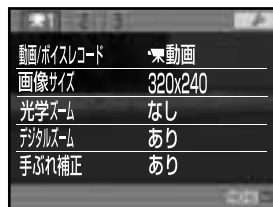
- 露出補正の設定を行うと、シーンセレクターモードおよび動画撮影モードでも有効になります。
- ホワイトバランスの設定を行うと、動画撮影モードでも有効になります。
- オートリセットを「あり」に設定している場合は、上下／左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。

  ドライブモード：□（1コマ撮影）
  露出補正：0.0
  ホワイトバランス：AUTO
  撮像感度：AUTO

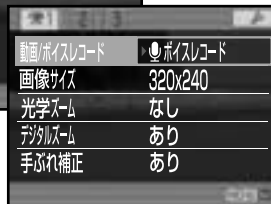
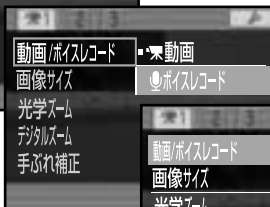
動画撮影 / ボイスレコード

カメラのモード切り替えレバーを ・ 位置にすると、動画撮影/ボイスレコード(音声記録)モードになります。この章では、この動画撮影とボイスレコードについて説明しています。

このカメラは、動画はカードの容量、または、電池の容量がなくなるまで連続しての撮影が可能です。ボイスレコード(音声記録)は最長連続180分の記録ができます。長時間連続して動画撮影/音声記録される場合は、別売りのACアダプターセットAC-402のご使用をおすすめします。

動画/ボイスレコード

動画とボイスレコードの切り替え

1.モード切り替えレバーが動画撮影/ボイスレコードモード位置(・)で、メニューボタンを押します。

● 液晶モニターに動画/ボイスレコードモードメニュー画面が表示されます。

2. 十字キーの上下で [動画/ボイスレコード] を選びます。

3. 右キーで右側に移動します。

4. 上下で [動画] か [ボイスレコード] かを選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

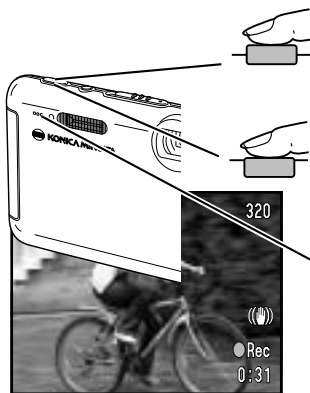
動画

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

1. 前ページに記載の手順で、動画を選びます。

- メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニター左上には動画の、右上には動画の画像サイズ、右下には動画の(撮影可能な)残り秒数が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、液晶モニター画面右下に○(フォーカス表示)が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで、動画撮影を開始します。

- 撮影中は●Rec が表示され、右下には撮影可能な残り時間が表示されます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、赤色の残り秒数表示に変わります。
- カメラ前面のマイクを指やストラップ等でふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

(次ページへ続く →)

動画撮影時の設定について

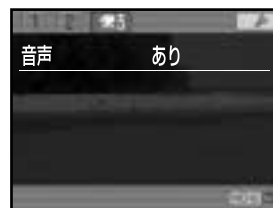
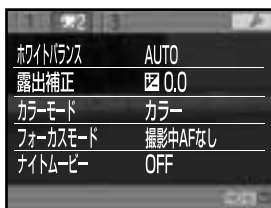
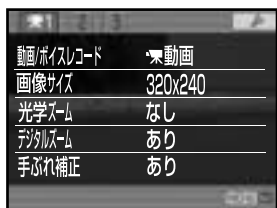
撮影中の操作が可能	光学ズーム、デジタルズーム
撮影前に設定可能、撮影中の操作は不可	画面表示の切り替え、画像サイズ、手ぶれ補正、ホワイトバランス、露出補正、カラーモード、フォーカスモード、ナイトムービー、音声、ハイブライトLCD
動画での設定は固定	フォーカスエリア（ワイドフォーカスフレーム）、撮像感度（AUTO）、測光モード（多分割）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）
動画での設定は不可	フラッシュ、シーンセレクター、シャープネス、コントラスト、日付写し込み

- 撮影された動画は、SDメモリーカード内にMotion JPEG（MOV）ファイルとして保存されます。
- 付属の32MBのカードには、合計約1分10秒間（画像サイズ320x240）の動画を記録することができます。
- カードの性能および撮影条件によっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。データ転送速度の速いSDメモリーカードのご使用をおすすめします。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、動画撮影はできません。（『電池が少ないので動画撮影できません』というメッセージが表示されます。）
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます（ナイトムービー機能→ P.89）。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。
- 動画撮影時は電子式手ぶれ補正を採用しているため、画角が若干狭くなります。

動画モード時のメニュー（ボイスレコードモード時はメニューは表示されません）

動画モード時にメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モード時のメニュー設定と同じです。→ P.52

動画/ボイスレコード 🎥動画
画像サイズ 320x240
光学ズーム なし
デジタルズーム あり
手ぶれ補正 あり

ホワイトバランス AUTO
露出補正 0.0
カラーモード カラー
フォーカスモード 撮影中AFなし
ナイトムービー OFF

🎥1	
動画/ボイスレコード（→ P.82）	[動画]
	ボイスレコード
画像サイズ（→ P.86）	640×480
	[320×240]
光学ズーム（→ P.87）	あり
	[なし]
デジタルズーム（→ P.87）	[あり]
	なし
手ぶれ補正（→ P.87）	[あり]
	なし

🎥3	
音声（→ P.89）	[あり]
	なし

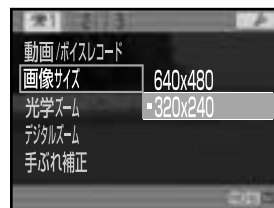
🎥2	
ホワイトバランス（→P.88）	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
露出補正（→P.88）	±2.0（1/3ステップ）[±0.0]
カラーモード（→P.88）	[カラー]
	モノクロ
	セピア
フォーカスモード（→P.89）	撮影中AFあり
	[撮影中AFなし]
ナイトムービー（→P.89）	ON
	[OFF]

※[　　]で囲んだものは初期設定です。

（次ページへ続く →）

画像サイズ

動画の大きさを指定することができます。2通りの中から選ぶことができます。

MENU →［🎥1］→［画像サイズ］→【右側へ】→［希望のサイズ］→【実行】→ MENU

● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、320×240を選んだ場合は、320と表示されます。

カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。特に、画像サイズ 640×480の設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

光学ズーム

動画撮影中の光学ズームが設定できます。
「なし」に設定時も、撮影開始前の光学ズームは可能です。

MENU →［動画1］→［光学ズーム］→【右側へ】→［ありまたは なし］→【実行】→ MENU

● 撮影中に光学ズームを行うと、ズーミングの動作音が録音されます。
気になる場合は、光学ズームなしにして撮影してください。

デジタルズーム

動画撮影の撮影開始前および撮影中のデジタルズームが設定できます。
静止画のデジタルズームの設定とは非共通です。→P.77

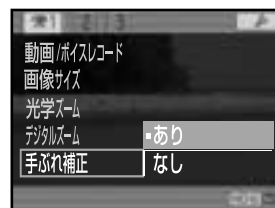
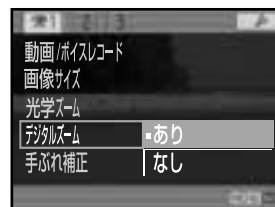
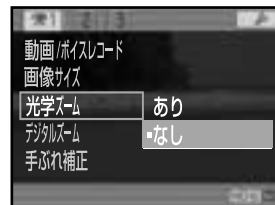
MENU →［動画1］→［デジタルズーム］→【右側へ】→［ありまたは なし］→【実行】→ MENU

● 画像サイズで、640×480を選んだ場合は、設定できません。

手ぶれ補正

初期設定では、シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合、手ぶれ補正機能を解除することができます。

MENU →［動画1］→［手ぶれ補正］→【右側へ】→［ありまたは なし］→【実行】→ MENU

（次ページへ続く →）

ホワイトバランス　　露出補正　　カラーモード

MENU →［🎥2］→［ホワイトバランス］→【右側へ】→［希望のホワイトバランス］→【実行】→ MENU

MENU →［🎥2］→［露出補正］→【右側へ】→［上下キーで数値設定］→【実行】→ MENU

MENU →［🎥2］→［カラーモード］→【右側へ】→［希望のカラーモード］→【実行】→ MENU

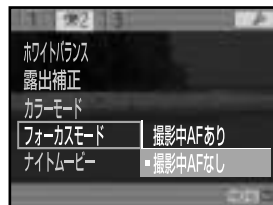
動画のホワイトバランス、露出補正値、カラーモードを設定できます。
設定方法や各設定での選択肢は、撮影モード時のメニューと同じです。
（ホワイトバランス → P.66　　露出補正 → P.71　　カラーモード → P.74 ）

● ホワイトバランス、露出補正（値）、カラーモードの各設定は、撮影モード（📷）時のメニュー設定と共通です。どちらかのメニュー画面での設定と同じ設定が、もう一方のメニュー画面に現れます。

フォーカスモード

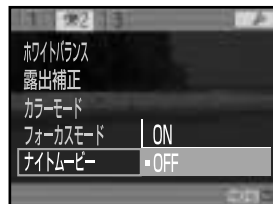
動画撮影中のフォーカスモードを選ぶことができます。

撮影中AFあり：動画撮影中も常にオートフォーカスが作動し、ピントを合わせ続けます。

撮影中AFなし：ピントは動画撮影開始時の位置で固定されます。撮影中はオートフォーカスは働きません。初期設定は撮影中AFなしです。

MENU →［2］→［フォーカスモード］→【右側へ】→［撮影中AFあり または 撮影中AFなし］→【実行】→ **MENU**

● 撮影中AFありを選ぶと、オートフォーカスの動作音が録音される場合があります。気になる場合は、撮影中AFなしにしてください。

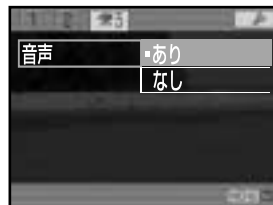
ナイトムービー

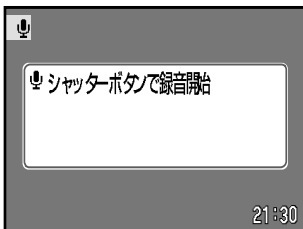
暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを［ON］にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

MENU →［2］→［ナイトムービー］→【右側へ】→［ON または OFF］→【実行】→ **MENU**

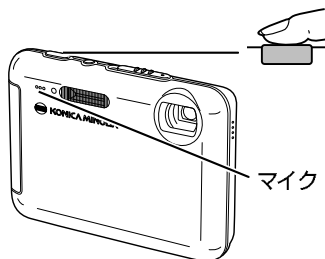
● ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

音声

動画撮影に音声を入れるかを選ぶことができます。

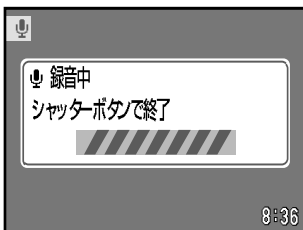
MENU →［3］→［音声］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ **MENU**

ボイスレコード

連続最長180分までの、音声のみの録音ができます。

1.82ページに記載の手順で、ボイスレコードを選びます。

● メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニターには左の「録音開始画面」が表示されます。液晶モニター左上にはが、右下には録音可能な残り時間（"時：分：秒"、60分未満の場合は "分：秒"）が表示されます。

2.シャッターボタンを押して録音を開始します。

● 録音を開始すると、左下図のようなバーグラフが表示され、画面右下には録音開始からの経過時間が表示されます。連続録音時間が180分に近づくなどで録音可能な残り時間が10秒以下になると、赤色の残り秒数表示に変わります。

● 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

● マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

3.録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 付属の32MBのカードには、合計約31分47秒間の音声を記録することができます。

※音声の再生について → P.100

● 録音された音声は、SDメモリーカード内に WAVファイルとして保存されます。